Q JICAは大学や地方自治体とどのように連携しているの?

Q&A JICAに聞きたい!

近年、日本国内で多様化している国際協力の"プレーヤー"。独自の専門性やノウハウを持つ大学や地方自治体は、JICAにとって欠かせない国際協力のパートナーだ。

(上)旭川市で研修中のハルビン市建設委員会の職員たち。旭川市のち密な施工監理体制に感嘆の声が上がった
(左)バングラデシュの子どもたちの歯の状態を検診する北海道大学の本多丘人准教授

JICA札幌
市民参加協力課
徳田 小矢子

PROFILE
1999年JICAに就職。農林水産開発調査部(当時)、国内事業部、ネパール事務所を経て、2007年9月より現職。

「大学や地方自治体と連携し 国際協力の担い手を増やしたい」

A 国内外をフィールドに専門的な研究を行う大学機関、そして、市民の快適な暮らしをあらゆる面で支えている地方自治体は、日本の国際協力をリードする強力なプレーヤーです。JICAもそういった"地元"とのつながりを大切にしながら、よりよい連携ができるよう模索しています。代表的な連携メニューとしては、NGOの方にも広く活用していただいている「草の根技術協力事業」が挙げられます。

JICA札幌では、北海道大学大学院歯学研究科と協働で、草の根技術協力事業(支援型)「バングラデシュ国における健康増進のための予防歯科モデル事業」を実施しています。専門家として活動しているのは大学の先生方ですが、歯学部の学生サークル「冒険歯科」のメンバーも夏休みを利用して現地を訪れています。バングラデシュの歯科医師たちと協力して歯科検診を手伝ったり、紙芝居を使って子どもたちに歯みがきの仕方を教えたりと、国際協力の体験の場となっていることも、大学連携事業ならではの特徴だと思います。

また地方自治体では、旭川市都市建築部が草の根技術協力事業(地域提案型)を活用し、中国ハルビン市で「寒冷地における省エネ対応住宅改善計画」に取り組んでいます。これは、旭川市とハルビン市の長年の友好都市交流を土台に始まった技術協力。寒冷地ならではの省エネ技術を取り入れた住宅設計・施工監理について、両市の技術者がうまく共鳴し合い、地道な成果が上げられています。全国的に見ても、友好/姉妹都市交流がきっかけで国際協力に発展するケースが多く、交流で培われた信頼関係の上に成り立つ協力の"可能性"というものを、JICAは大切にしていきたいと考えています。

大学も地方自治体も、それぞれに本来業務がありながら国際協力に取り組むのはとても大変なことだと思いますが、どこにも必ず"キーパーソン"となる人がいて、周りの人を引っ張ってくれています。これこそ、活動が長く、深く続いていくカギではないでしょうか。そのような人の活躍の場が広がるよう、JICAも何らかの形でお手伝いをしていけたらと思っています。全国の大学、地方自治体の皆さん、JICAと一緒に連携の可能性を探っていきましょう。

こんな連携もあります!(JICA札幌 番外編)

◆研修員受入事業
札幌水道局「寒冷地水道」コース、札幌市立大学看護学部「マレーシア感染症対策」コース(青年研修)など。

◆国際協力マルチアクターサミット
北海道・東北地方の自治体や大学、NGO、民間企業などの関係者が集い、多様な担い手が連携することで広がる国際協力事業について話し合う。